

報道関係 各位

全国環境保全型農業推進会議  
事務局 一般財団法人日本土壤協会

**環境に配慮した農業生産活動に意欲的に取り組む農業者・団体を表彰**  
**「第19回環境保全型農業推進コンクール」の実施結果について**  
**全国から63事例の応募、2点が農林水産大臣賞、6点が農林水産省生産局長賞を受賞**

全国環境保全型農業推進会議は、平成26年1月23日、「第19回環境保全型農業推進コンクール」（後援：農林水産省等）の各賞受賞者を決定しました。

本コンクールは、環境保全型農業および有機農業において、経営や技術の改善に取り組み、農業・農村環境保全を通じて地域社会の発展に貢献している農業者・団体を表彰し、その成果を広く紹介して環境保全と農業に対する国民の理解を深めるために、平成7年度から毎年実施されています。

第19回は全国から63事例の応募があり、うち48事例が各都道府県の環境保全型農業推進協議会等から全国環境保全型農業推進会議に推薦されました。

審査の結果、特に優良と認められる事例2点が「大賞（農林水産大臣賞）」、最も優良であると認められる事例6点が「最優秀賞（農林水産省生産局長賞）」、優良と認められる事例14点が「優秀賞」（全国環境保全型農業推進会議会長賞12点、全国農業協同組合中央会会長賞2点）、今後の展開が期待される事例21点が「奨励賞」（全国環境保全型農業推進会議会長賞）として表彰されます。

また、新規就農者の確保や後継者育成の面から環境保全型農業の拡大・推進に資すると判断される4高等学校および優れた施策を企画して環境保全型農業の推進のための活動を支援した1自治体の5点が「特別賞」（全国環境保全型農業推進会議会長賞）として表彰されます。

**大賞および最優秀賞の表彰式は全国で行い、それ以外の賞を対象とした表彰式は、地方ブロック協議会ごとに行います(別紙参照)。**

本年度は、第19回環境保全型農業推進コンクール表彰式・シンポジウムを下記の通り開催します（別添ポスター参照）。

開催日時：平成26年2月25日（火）13:00～16:30

会場：千代田区内幸町ホール（tel 03-3500-5578）

住所：東京都千代田区内幸町1-5-1

（参考）ホームページURL：<http://www.ecofarm-net.jp/04contest/index.html>

**【問い合わせ先】** 全国環境保全型農業推進会議事務局  
一般財団法人 日本土壤協会 担当：家常 高  
電話 03-3292-7281 F A X 03-3219-1646  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-58  
パピロスビル6F

## 第 19 回環境保全型農業推進コンクールの審査結果並びに講評

平成 26 年 1 月 23 日

第 19 回環境保全型農業推進コンクールでは、全国から環境保全型農業及び有機農業に取り組む 63 事例の応募があり、うち 48 事例が各都道府県の環境保全型農業推進協議会等から全国環境保全型農業推進会議に推薦されました。これらの推薦事例を審査した結果、その取組内容が特に優れていると認められる事例 2 点を「大賞」、最も優良であると認められる事例 6 点を「最優秀賞」、優良であると認められる事例 14 点を「優秀賞」、今後の展開が期待される事例 21 点を「奨励賞」、新規就農者の確保や後継者育成などの観点から環境保全型農業・有機農業の推進を促進すると判断される 4 つの高等学校および優れた施策を企画して環境保全型農業の推進のための活動を支援した 1 自治体の 5 点を「特別賞」とすることとしました。

### ◎ 大賞（農林水産大臣賞）

#### ○ 山形県「遊佐町共同開発米部会」（環境保全型農業分野）

1971 年に始まった生活クラブ生協とのつながりから、1992 年に農協の下部組織として「遊佐町共同開発米部会」が発足し、農法、価格、ブレンド方法、食べ方等全般にわたり消費者と創りあげる「共同開発米事業」を進めた。統一した生産方法による環境に配慮した米づくりを進め、2008 年には部会が作る米「遊 YOU 米」のすべてを化学肥料・化学合成農薬の割合を慣行栽培の 50%以下に抑えた特別栽培農産物の認証を受けた。また、地域内の未利用資源を活用した地域内循環型肥料「遊佐づくし」の開発、「飼料用米プロジェクト」の立ち上げにより資源循環、耕畜連携等にも取り組み、この飼料用米プロジェクトの取組は県内外に波及した。生活クラブ生協と 40 年以上の提携関係が継続した実績と、今後の環境保全型農業のさらなる展開が期待できることが極めて高く評価された。

#### ○ 栃木県「帰農志塾」（有機農業分野）

帰農志塾（戸松正）は、ベトナムでの農業指導を経て 1976 年に新規就農し、同時に新規就農者の教育を目的とした帰農志塾を設立（農場研修）し、就農希望者を常時 7～8 名受け入れてきた。現在までに 80 人以上の卒業生を全国に送り出し、卒業生は各地で就農、それぞれ有機農業の担い手として活躍している。また、リビングマルチ、コンパニオンプランツなどの新技術を開発し、見学会や専門誌へ発表するなど積極的な技術普及を行っている。また、福島第一原発事故以来、被災地から野菜等の寄贈依頼があり、700～800 箱程度の野菜を仮設住宅等に送り続けた。確かな有機農業技術・経営を基礎に、後継者養成、自家

採種、生消交流と食育、そして意欲的な技術開発や福島支援など、有機農業を核とした幅広い取組が極めて高く評価された。

◎ 最優秀賞（農林水産省生産局長賞）

○ 北海道「白瀬農園」（有機農業分野）

1972年（昭和47年）から農薬不使用・自然農法をベースとして微生物性をも考慮した毎年の土壌分析に基づく土作り、地域に適合した自家採種により、かぼちゃ、ばれいしょを中心にとうもろこし・大豆の無農薬・無施肥栽培を実施している。同一圃場において、かぼちゃは約30年、ばれいしょは約10数年にわたり連作を行っている。この栽培法によって化学物質過敏症の患者が野菜を長期的に摂取できる可能性がみられることから、研究者とデータを共有しながら科学的な根拠を解明する努力を払っている。当農園は、平成13年に有機JASの認定を受けている。また、地域消費者団体、教育機関との連携も図られ食育活動に努めている。有機・自然栽培のガイドライン比較、研究者と連携して有機栽培論文の発表、農場における実験データを積極的に公開するなど、農法確立のための努力が高く評価された。

○ 宮城県「株式会社 大滝自然農園」（有機農業分野）

経営理念は「農業の真の目的は、だれしも安心して食べられ心も体も満たしてくれる本来の食料を生産することである」のもと「食は命」をモットーに自然循環型農法に取り組み、野菜（約110種類）栽培を中心に水稻、きのこ類の栽培を行っている。若い農業者の育成を熱心に行い、新規就農希望者の研修を受け入れてきた。2005年には知的障害者の小規模作業所「サンサンファクトリー」を開設した。また、消費者への理解促進として「農村ならではのコミュニティーを作りたい」との思いから、取引先である企業や一般消費者などの農業体験受け入れを積極的に行っている点などが高く評価された。

○ 群馬県「甘楽町有機農業研究会」（有機農業分野）

使用認可資材の統一化の一方、有機質肥料の肥効特性に基づいた作物ごとの資材選定、早期の作物栄養診断、土壌物理性改善、作物ごとのpH調整など、科学的根拠に基づいた基本技術の実践がなされている。生産工程管理や実需者が求める農産物品質への考慮などにより、出荷先や消費者の信頼確保に大きな貢献が認められる。研究会を通じた出荷はすべて契約栽培で行っており、実需者の意向を把握しながら多様な販売を行っている。また、化石燃料を使わないハウス栽培等を実践すると共に、遊休農地を活用して菜の花を育てる事業“菜の花プロジェクト in 甘楽”では土づくりアドバイザーとして参加するなど、地域の景観保全活動等が高く評価された。

○ 埼玉県「農事組合法人埼玉産直センター」（環境保全型農業分野）

昭和 48 年 12 月に 5 人の農業者が集まり、生協組合員に向けた産直活動として取組を開始した。その後、平成 15 年度より組合員全員が、エコファーマーの認定を取得し環境保全型農業を実践している。実践・工夫している主な技術内容は、緑肥を組み込んだ輪作体系で土づくりに努め、近隣生協（出荷先）が排出する食物残さを用い独自の肥料工場でぼかし肥料を生産し、組合員に配布している。また、太陽熱消毒や混植（トマトの株間にネギやニラを植える等、輪作（露地野菜に緑肥作物等を組み合わせる）により、連作障害を回避し、持続可能な農業生産に努めている。GAPに基づいた野菜生産を一層重視するなど消費者の信頼に応える姿勢が高く評価された。

○ 千葉県「銚子野菜連合会」（環境保全型農業分野）

銚子市におけるキャベツ栽培は昭和 28 年から始まり、当初より土づくりのための家畜ふん堆肥の投入が盛んであったが、さらに昭和 50 年代前半にはソルゴーなどの緑肥利用技術が導入された。千葉県では、平成 14 年に「ちばエコ農業」を推進するために、栽培された農産物の認証制度を発足させたが、銚子野菜連合会は平成 15 年にキャベツ・ダイコンで「ちばエコ農業産地」の指定と、「ちばエコ農産物」の認証を受けた。「ちばエコ農業」「環境保全型農業直接支払交付金」の推進により、化学合成農薬、化学肥料の使用が半減した。さらに、緑肥（対抗植物）の作付による土壌消毒剤等の使用の削減、炭素の土壌中への貯留、裸地期間を短縮することによる硝酸態窒素の地下への流亡防止に大きな効果を上げる等の取組が高く評価された。

○ 熊本県「やつしろ菜の花ファーム 987」（環境保全型農業分野）

菜の花の栽培により循環・環境農業を実践することを目的に、平成 18 年に「やつしろ菜の花部会」が設立された。10 月に菜の花の種まき、翌年 5 月に収穫、6 月に菜の花米の植え付け、10 月に稲刈り、その後 11 月から翌 7 月までい草を生産し、い草後に飼料稲を植えている。このようにほ場は 2 年サイクルとし、農地が無駄なく活用される合理的な輪作体系を確立している。当集団は、この計画的な輪作体系の確立で、化学肥料、農薬の低減が図られ、地域を含めた食育教育、多数のイベントの開催による消費者等への情報発信や啓発活動、商品開発等の 6 次産業化への取組が地域活性化につながっており高く評価された。

◎ 優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞・全国農業協同組合中央会会長賞）

「最優秀賞」に続き、有機農業をはじめとする環境保全型農業の実践、経営

の確立、地域の有機資源の利活用、消費者との交流、食育の充実、地域活性化への貢献及び環境保全型農業に取り組む農業者支援等に積極的に取り組んでいる点などを評価して14点を選定した。

◎ 奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

環境保全型農業及び有機農業に積極的に取り組んでおり、今後の一層の取組強化が期待される点などを評価して21点を選定した。

◎ 特別賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）

高等学校において新規就農者の確保や後継者育成などの観点から、今後の環境保全型農業・有機農業の拡大・推進に資すると判断される点などを評価して4高等学校を選定した。また、自治体による施策が、環境保全型農業推進に重要な役割を果たしたことを評価して1自治体を選定した。

以上

## 第19回環境保全型農業推進コンクール 受賞者一覧

表彰	ブロック	都道府県	名 称
大賞（農林水産大臣賞）			
2点	東北	山形	遊佐町共同開発米部会
	団体(関東)	栃木	帰農志塾
最優秀賞（農林水産省生産局長賞）			
6点	北海道	北海道	白瀬農園
	東北	宮城	株式会社 大滝自然農園
	関東	群馬	甘楽町有機農業研究会
	関東	埼玉	農事組合法人埼玉産直センター
	関東	千葉	銚子野菜連合会
	九州・沖縄	熊本	やつしろ菜の花ファーム987
優秀賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）			
12点	東北	岩手	までっこチキン生産者連絡協議会
	東北	山形	おきたま自然農業研究会
	関東	茨城	下妻市果樹組合連合会
	関東	栃木	旬の野菜 爽菜農園
	関東	長野	バジルクラブ
	北陸	新潟	有限会社 米工房いわむろ
	近畿	滋賀	農事組合法人 サンファーム法養寺
	近畿	兵庫	牛尾 武博
	近畿	和歌山	農事組合法人 古座川ゆず平井の里
	中国・四国	島根	有限会社 宝箱
	九州・沖縄	長崎	吾妻旬菜 株式会社
	九州・沖縄	熊本	株式会社 那須自然農園
優秀賞（全国農業協同組合中央会会長賞）			
2点	東海	愛知	J A 愛知みなみエコセンター
	九州・沖縄	鹿児島	そお鹿児島農協ピーマン専門部会
奨励賞（全国環境保全型農業推進会議会長賞）			
21点	東北	秋田	佐々木義実
	関東	茨城	有限会社アグリクリエイト
	関東	神奈川	三浦とうがん会
	関東	山梨	J Aクレイン学校給食食材提供部会
	関東	長野	JA 信州うえだ鷹山野菜部会
	関東	静岡	松下明弘
	北陸	新潟	有限会社 グリーン
	北陸	石川	新井 寛
	北陸	福井	ほたるの里丁 有機農法研究会
	東海	三重	純正農園 須田純正
	近畿	京都	梅本農場 梅本修

奨励賞 (続き)	近畿	大阪	北河内農業協同組合
	中国・四国	岡山	岡山市農協青果物生産組合 浦安支部なす部会
	中国・四国	香川	宮井 進
	中国・四国	愛媛	ちろりん農園
	中国・四国	愛媛	岡田・松前うまい米づくり部会
	九州・沖縄	佐賀	農事組合法人 ハッピーファーマーズ
	九州・沖縄	熊本	水上村良質米生産部会
	九州・沖縄	大分	JA 九重町飯田水稻部会
	九州・沖縄	沖縄	株式会社 みやぎ農園
	団体 (東北)	山形	株式会社 米沢郷牧場
特別賞 (全国環境保全型農業推進会議会長賞)			
5点	関東	群馬	群馬県立安中総合学園高等学校
	関東	静岡	静岡県立田方農業高等学校
	北陸	富山	富山県立中央農業高等学校
	東海	岐阜	岐阜県立飛騨高山高等学校 園芸科学科
	九州・沖縄	大分	臼杵市有機農業推進室

合計 48点

# 第19回環境保全型農業推進コンクール審査委員会 審査委員

(50音順・敬称略)

氏名	所属・役職
松本 聰 (委員長)	一般財団法人 日本土壌協会 会長 東京大学 名誉教授
あん・まくどなるど	上智大学大学院 地球環境学研究科 教授
内山 和夫	日本生活協同組合連合会商品政策室産直グループ グループマネージャー
大西 茂志	全国農業協同組合中央会 常務理事
佐々木 陽悦	農業者 全国エコファーマーネットワーク会長
中島 紀一	茨城大学 名誉教授



## 第19回環境保全型農業推進コンクール 表彰式日程（調整中あり）

ブロック	日時	会場
北海道	平成26年 3月12日(水) 13:00～	「第19回環境保全型農業推進コンクール表彰式(2014クリーン農業セミナー(主催:北海道クリーン農業推進協議会)内で実施)」 J A北農ビル19階 住所:北海道札幌市中央区北4条西1丁目 (表彰状授与、取組事例の発表)
東北	平成26年 3月11日(火) または12日(水)	東北ブロック環境保全型農業推進フォーラム 仙台合同庁舎8階講堂 (tel: 022-221-6241) 住所:仙台市青葉区本町3-3-1 (表彰状伝達、コンクール受賞事例発表、講演など)
関東	平成26年 3月中旬(予定)	第19回環境保全型農業推進コンクール関東ブロック表彰式及び事例発表会 さいたま新都心合同庁舎2号館会議室(予定) 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 表彰式の後、受賞者の事例発表を行う。
北陸	平成26年 3月4日(火) 13:00～	北陸地域環境保全型農業推進シンポジウム 金沢広坂合同庁舎1階大会議室 住所:金沢市広坂2丁目2番60号
東海	平成26年 3月11日(火)	第19回環境保全型農業推進コンクール東海ブロック表彰式及び受賞者との意見交換会 東海農政局 局長室 住所:名古屋市中区三の丸1-2-2 (大賞・最優秀賞以外の賞状授与ののち、東海ブロックの受賞者との意見交換会を開催)
近畿	平成26年 3月18日(火)	近畿地域環境保全型農業推進シンポジウム ホテルルビノ京都堀川(平安) 京都市上京区内東堀川通下長者町 (表彰授与ののち、取組事例の発表、基調講演をシンポジウム形式で実施する。)
中国・四国	平成26年3月24日	第19回環境保全型農業推進コンクール表彰式及び中四国環境保全型農業推進フォーラム 岡山市内(ピュアリティまきび)(TEL086-232-0511) 岡山県岡山市北区下井2-6-41 (賞状授与ののち、取組事例発表、施策説明、パネルディスカッションを行う。)
九州・沖縄	平成26年 <b>平成26年3月18日(火)(予定)</b>	第19回九州・沖縄ブロック環境保全型農業推進コンクール表彰式及び平成25年度環境保全型農業推進大会 熊本地方合同庁舎共用会議室 住所:熊本市春日2丁目10番1号 tel 096-211-9111 ① 基調講演、② 審査講評、③ 表彰状伝達、④ 取組事例発表
全国	平成26年 <b>2月25日(火)</b> 13:00～16:30	千代田区立内幸町ホール 住所:東京都千代田区内幸町1-5-1 (tel03-3500-55758) (表彰状授与の後、基調講演・取組事例の発表をシンポジウム形式で行う)